

さいたま市文化財時報

かや 榎りぼーと

第46号

さいたまの地形と暮らし

豊かな歴史文化を育んださいたまの大地。その地形を詳しく見ると、台地と低地という、二つの成り立ちがあります。弥生時代以降、稲作が本格的に行われるようになると、水田に適した低地へと、人々の生活の場が広がりますが、それ以前にも、台地と低地という地形の特性を活かし、そこを舞台とした人々の暮らしがありました。そうした地形の様子を詳しく見ながら、縄文時代までの文化財を紹介します。

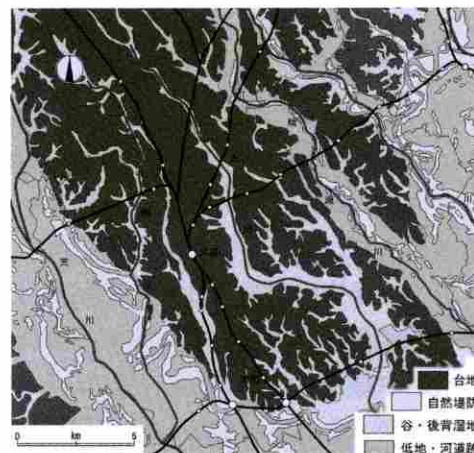
*以下では、文化財の指定名称をゴシック体で記し、国・県と注記したものの以外は市指定文化財であることを示しています。

さいたまの大地

さいたま市の地形は、大きく分けると、台地と低地から成り立っています。

台地は、高台にあたり、市域の中央部に広がっています（右下の図の色の濃いところ）。この台地は、一般に「大宮台地」と呼ばれています。台地の表層は、数メートルの厚さで、火山灰が降り積もって出来上がった土の層が覆っています。この層のことを関東ローム層といいます。台地は真っ平らな高台ではなく、緩やかな起伏があり、さらに降り注いだ雨水が長い年月、流れ下ることによって形成された谷が幾重にも入り込んでいます。発達した谷には中小の河川が流れています。

低地は、低く平らな土地で、大宮台地の西から南、そして東に広がる大きな低地と、台地の内部に伸びる細長い低地とに分けることができます（右下の図の薄い色のところ）。大宮台地の西から南に広がる低地は、「荒川低地」と呼ばれ、大宮台地の東に広がる低地は「中川低地」と呼ばれています。荒川低地には大河・荒川（江戸時代前期までの入間川）が流れ、さらに台地内から流れ出た鴨川や鴻沼川、芝川などが流れ下っています。中川低地には、古利根川、中川などの大河が流れ、市域では綾瀬川や元荒川（江戸時代前期までの荒川）、古隅田川などが流れています。台地内に伸びる低地の中で、規模の大きなものには鴻沼低地、芝川低地、綾瀬川低地などがあります。また、低地には、周囲よりも少し高い、細長い高まりが断続しているところがあります。これは、河川の氾濫などによって形成された高まりで、「自然堤防」と呼ばれています。



さいたま市の地形

台地と低地の暮らし

このように起伏に富んださいたまの大地は、豊かな自然にも恵まれて、古くから私たちの祖先の活動が始まっていました。特に、電気も水道もなかった時代のこと。生活に必要な水を得やすい台地の縁辺には、遺跡として生活の痕跡が数多く残されており、遺跡や出土品の中には、文化財に指定されているものもあります。

最も古い生活の痕跡は、旧石器時代から始まります。この時代は氷河期に当たっていて、現在の大きな低地は、今よりも数十m深い大峡谷だったと考えられています。そうした峡谷に面した台地の縁辺で、ナイフ形石器などの石器やキャンプの跡などが見つかっています。「北宿西遺跡出土旧石器時代資料」（緑区三室、北宿西遺跡出土）、「中川の旧石器時代資料」（見沼区中川・中川貝塚出土）、「大和田の旧石器時代資料」（見沼区大和田、大和田高明遺跡出土）は、この時代の石器製作技術や石器の種類を示す好例です。

氷河期が終わり気候の温暖化が進むと、旧石器時代から縄文時代へと時代が移り変わり、やがて集落の形成も始まります。河川が発達して、河川が運んだ土砂が峡谷を埋めて低地の形成が始まります。さらに温暖化がピークに達すると、海水面が上昇して海が内陸にまで広がって来ます。この海は「奥東京湾」と呼ばれています。奥東京湾沿いや大きな谷筋に面した集落の中には、貝塚を伴う集落もたくさん形成されています。「大谷場貝塚出土諸磯式土器」（南区南本町、大谷場貝塚出土）や「松木遺跡出土土偶」（緑区三室、松木遺跡出土）は、この時期の資料です。

縄文時代の後半には、海は次第に内陸から遠ざかり、海が引いた後には河川や湿地が発達していきます。「真福寺貝塚」（岩槻区城南、国）や「馬場小室山遺跡」（緑区三室）は、この時期を代表する遺跡です。「真福寺貝塚」は、綾瀬川低地から台地内へと伸びる谷の先端（谷頭）が迫った台地上に広がり、「馬場小室山遺跡」は芝川低地に面した台地縁辺に広がっており、どちらも低地の利用を強く意識していると考えられます。この内、「真福寺貝塚」では、遺跡の中には貝塚も形成されていて、恐らく谷を綾瀬川低地へと下り、貝を採取していたのでしょう。真福寺貝塚で出土する貝は海水と淡水が交じり合ったあたりに生息する貝（ヤマトシジミ）が中心です。この時期まで、綾瀬川低地の付近にはまだ海が残っていたことがうかがわれます。



▲真福寺貝塚 台地から谷に向かう斜面

実際、貝塚の中からは、シカやイノシシなどの獣の骨と共に、海で獲れる魚の骨も出土しています。

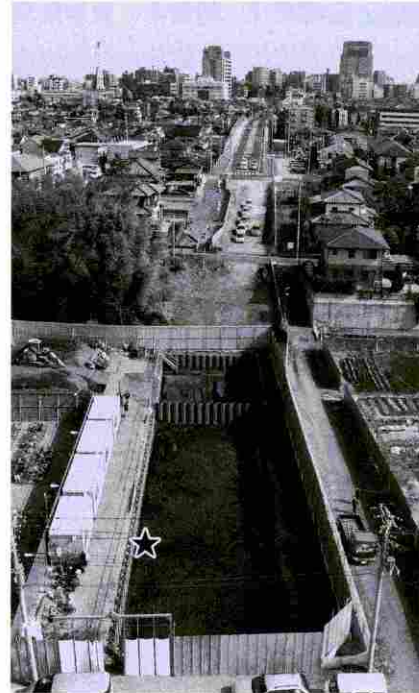
「真福寺貝塚」が面する谷の中には、「泥炭層遺跡」が形成されています。通常の台地上の遺跡では腐って残らない木製の道具や植物の種子などが出土することで知られています。そこには水を利用する生活のための施設等も設けられていたと考えられますが、これまでのところ、具体的なことはわかっていません。そうした水辺の施設の様子—縄文時代の人々は水辺をどのように利用していたのか—は、「南鴻沼遺跡」（中央区大戸）で行われている発掘調査で具体的な様子が解き明かされつつあります。その詳しい内容は、次のページで紹介していますので、そちらをご覧ください。

「馬場小室山遺跡」の出土遺物は、「馬場小室山遺跡出土 土偶装飾土器・人面画土器」（県）や「馬場小室山遺跡第51号土壙出土縄文土器」（県）が文化財に指定されています。他に、「大谷場遺跡出土晩期縄文式土器」（南区南本町、大谷場遺跡出土）や「亀形土製品及び伴出遺物」（見沼区東大宮、東北原遺跡出土、県）などがこの時期の指定文化財です。



▲馬場小室山遺跡出土 土偶装飾土器

縄文時代の丸木舟が出土!

みなみ こう ぬま
南鴻沼遺跡

▲南鴻沼遺跡遠景
(★：舟が出土した場所)

◀丸木舟の出土状態

縄文時代の丸木舟が発見されました。場所は中央区大戸1丁目、遺跡の名称は南鴻沼遺跡。台地上の遺跡と違い、鴻沼川東側の台地下に広がる低湿地に遺跡はあります。

丸木舟は、平成24年8月、西側調査区の中央北寄りですを向いた状態で発見されました。

出土した地層や舟内からの出土土器などから、縄文時代後期のものと考えられます。

この舟は丸木材を削り貫いて作られ、大きさは、長さ約3 m60cm、最大幅約50cm、船縁から船床までの深さ約20cmで、船縁部の断面はゆるくカーブし、内側に向いています。また舟の西端は、胴部に比べて幅が狭く作られています。

さいたま市内では昭和30年代以降、見沼区や緑区などで破片も含め、縄文時代の丸木舟が10艘以上発見されており、埼玉県内で最も多くの出土例が知られています。このうち、見沼区膝子遺跡からは複数の丸木舟がまとまって発見されていますが、現存するものは1艘のみです。

南鴻沼遺跡は、JR埼京線中浦和駅から北に約600mのところに位置しています。道路の建設に先立ち、平成23年度から24年度にかけて発掘調査が行われています。

平成24年9月現在、東側調査区の発掘調査が終わり、西側調査区を調査していますが、今までの発掘調査成果としては、まず、縄文時代中期末から後期にかけての水場遺構が2か所検出されました。また、櫛(オール)や木製容器の未製品、漆の入った土器の出土は、木や漆の加工場所の存在をうかがわせます。他にも編組製品や漆塗りの櫛状製品、そして縄文時代後期のこの丸木舟が出土しました。

丸木舟の発見は、縄文時代後期の造船技術や舟の形態を知るばかりでなく、当時のムラの周辺に舟の材料となる様な太い木が生育する森が存在したことを示していると共に、当時の人々が丸木舟を使用して盛んに小河川を移動・利用していたことも考えられ、先に発見された水場遺構との関連性も含め、縄文時代の人々の「『森』や『水』と深くかかわる生活」を明らかにしていく上で大変貴重な発見となりました。

TOPIC

●最新出土品展2012 開催中 見学無料

南鴻沼遺跡をはじめ、最新の発掘調査の成果を、出土品等で紹介しています。さいたま市立博物館(9月8日(土)～9月23日(日))・プラザウエスト(10月2日(火)～10月8日(月))での展示を終え、今後は下記の日程で市内を巡回します(会場によって展示資料が若干変わります)。



▲最新出土品展

会場	期間	時間
浦和区役所 1階 (☎825-1111)	10月10日(水)～10月16日(火) 土・日閉庁	8時30分～17時15分
プラザノース 1階アトリウム (☎653-9255)	10月18日(木)～10月24日(水)	9時～21時30分
プラザイースト 1階アトリウム (☎875-9933)	10月26日(金)～11月1日(木)	
岩槻郷土資料館 (☎757-0271)	11月8日(木)～11月18日(日) 休館日11月12日	9時～16時30分
与野文化財資料室*	11月22日(木)～12月20日(木) 休館日11月23日	9時～16時

*展示の内容につきましては、文化財保護課(☎829-1723)まで。

さいたま市内指定無形文化財・無形民俗文化財の公開カレンダー(平成24年10月～平成25年1月)

天候などにより日程が変更することもありますので、詳しくはさいたま市のWebページをご覧ください。見学無料。文化財保護課(☎829-1723)までお問合せください。

名称	日時・場所・内容
田島の獅子舞 (市指定)	11月3日(祝) 15時30分～ 西堀氷川神社(桜区西堀8-26-1) 3頭の獅子が笛の音にあわせ、太鼓を打ちながら優美に舞います。
木遣歌(市指定)	10月14日(日) 9時～ 浦和ロイヤルパインズホテル前(浦和区仲町2-5-1) 「浦和鳶組合創立100周年・浦和若鳶会創立40周年記念行事」(さいたま市教育委員会後援)で、木遣歌や <small>まどい</small> 振り・梯子乗りを披露します。
南部領辻の獅子舞 (市指定)	10月14日(日) 13時～ 鷲神社(緑区大字南部領辻2914) 別名「竜頭の舞」。三頭の獅子による勇壮な獅子舞です。
岩槻の古式土俵入り (釣上地区)(国指定)	10月21日(日) 13時～ 神明社(岩槻区大字釣上220) 男子の健康と成長を願い、子どもたちが土俵入りを奉納します。
一山神社冬至祭 (市指定)	12月21日(水) 14時～ 一山神社(中央区本町東4-10-14) 一年間の穢れを祓い、新年の無病息災を願う火渡りを行います。
指扇の餅搗き踊り (市指定)	1月1日(祝) 0時～ 五味貝戸自治会館(西区指扇291) 万作踊りと餅搗き踊りを公開します。
日進餅つき踊り (市指定)	1月1日(祝) 0時～ 日進神社(北区日進町2-1194) 年明けの鐘とともに始まる餅つき踊りです。

さいたま市文化財時報

榎りぼーと

第46号

平成24年10月10日

《編集・発行》

さいたま市教育委員会 生涯学習部 文化財保護課
☎330-9588 さいたま市浦和区常盤6丁目4番4号
☎048-829-1723 ㊟048-829-1989
<http://www.city.saitama.jp/>